



実際に起業できるビジネスプランの作成を目指し、受講生と講師が活発に意見を交わしながら進める講座

八戸市は2019年5月1日に市制施行90周年を迎えます。

八戸 Pride Vol.02

— 市民力で未来へ —

八戸市が1929(昭和4)年に市制を施行してから、2019年5月1日で90周年を迎えます。人口減少や少子高齢化など地方を取り巻く状況が依然として厳しい中、北東北を代表する都市として飛躍するには行政の取り組みだけでは限界があります。八戸を愛し、ここで暮らしていることに誇り(プライド)を持って地域を支え、まちにエネルギーを生み出すとする人々の「市民力」が欠かれません。本連載特集「八戸Pride(プライド)」では、八戸が次の「市制100年」を見据えながら力強く前に進むための原動力となるような市民の取り組みなどを紹介します。

起業家養成

八戸学院地域連携研究センター

地域資源生かしビジネスに

「〇」の字形に並んだテナブ、大學生から社会人、退職したシニアまで年代は幅広い。各自が立ち上げたばかりのビジネスの「イデ」を披露しながら、西席に意見を交わす。10年で100人の起業家を育成する「八戸Pride」の第2回は、八戸学院地域連携研究センター(旧八戸大総合研究所)で2019年3月18日(土)に開催された。受講生を主体に、テラスセッション形式で進めるのが特徴だ。企業として地域社会と交わす契り、すなわち存在意義(ミッション)、具体的な目標(ビジョン)、開く共有したい価値観(バリュー)の3つをポイントに各自が何をしたいかを整理し、改題品を指摘した。

講師の開設当初から主講師として関わるのが、同センターの大谷真樹教授。自身もインターネットによるマーケティングリサーチ会社を起業した経験を持つ。現在は八戸学院グループ社長として、フィリピンでの学校開設などの国際化事業を進めている。時代の変化を先行して経営した。大谷さんが講座で伝える言葉はシンプルだ。「経営戦略とは、戦へべき場所を探すこと。目的の強をリソース(経営資源)ターゲット(顧客)が重なる所で起業するのが合理的である。この教えのもと、受講生は各自持つ人脈

や資金力、資格や技能などの「強み」を、逆に不足する「弱み」は何かという現状分析を重ねる。半年ほどの講座の期間中に、半ゼンセッションで投資家を納めさせ、資金調達できるような事業計画に仕上げることを目指す。受講生の男女比は半々くらいで、子育てや家庭をこなしながら起業家として活躍したいというハワフルな女性も多し。現在受講中のセラピスト(個別指導者)八戸市は、リタセッションのサロンを国内外に展開するという夢を持つ。講座の参加者は志が高め前向き。自分の考えるビジネスプランに、導く視点から指摘を頂いたので新たな気持ちで取り組む意気込みが感じられた。

「修」了生がこれまで同市や周辺地域で起こしたビジネスは、地元で地元で知らない付加価値を高めて国内外に販売展開するものが多い。地方の超える課題を細やかに解決するまで多岐にわたる。ネットを地元ユーザーの動向などを配信したり、農家が農作業中に記録したい情報をスマホで手軽に整理できるサービスを提供したりと、IT情報技術を活用した事業も増えすぎた。大谷さんは「ネットの普及によって首都圏との情報格差はほぼなくなり、地方でも起

業しやすい時代になった」と指摘。加えて、八戸が有する豊かな地域資源や、程よい都市の規模感が起業家にとって理想的だと強調する。新幹線や高規格道路など交通インフラが整備され、市内がパワースポットと称され、市内の大学や高等専門学校などから周辺エリアを含め美しい自然は魅力的な観光資源で、新鮮な食料の産地も近い。「八戸情報発信」が推進されている。地域資源を活用し事業を起こせる余地が大きい。地元で頑張る人は注目され、応援者も集まりやすいと利点を語る。

「こ」れまで開催した講座は計14期で、受講したのは延べ1000人以上に上る。修了生同士の絆は深く、八戸Pride「クラブ」という交流を定期的に開催し、職業仲間と情報交換している。会場の一角には、起業家を考えている人が短い時間だけセッションを発表するコーナーも。例えば、「やりがい」があるが、店舗が持たない」と悩みを打ち

明けると、別の修了生が協力を申し出て、実際に事業化につなげたケースもある。準備修了生の栗谷川野子さんは、南郷町で古民家を改装し、郷土産を販売する「栗谷川野子」を15年にオープン。この店を他の修了生にも起業を支援する場として提供し、あんなにの製造やコピーの類はなく、さまざまな人が集まり商売している。店舗の共同使用により、初期投資を抑えられるなどのメリットは大きい。さらに、栗谷川さんは「一人で解決できない課題があっても、多様な業種の人が集まることで強みを補い合える」という。競争の激しい時代に、起業家に求められるのはプランを表現するスピードだ。大谷さんは「自分がないものをゼロから開発する暇はない。埋もれている人材、資源を組み合わせて、独自のビジネスはまだまだ生まれる」と八戸地域ポテンシャルの高さを期待。「既存の企業もアイデアを持った若い起業家と交流し、広げようという流れを作れば、地域産業の発展は加速すると力を込める。



受講生や修了生が交流する「八戸Prideバレー」。異業種間で情報交換し、つながりを強めている

メッセ、ジ



八戸学院グループ 社長 大谷真樹さん

八戸市民の中には「地元には何もない」と自虐的に言う人がいるが、食や自然、文化、産業など魅力的な材料はたくさんある。お金を換えられない豊かさを実感しながら、

仕事と生活のバランスを取れる「八戸型ライフスタイル」はすでに、格好良い。そのことに誇りを持ち、賞状と情報発信してほしい。日本を訪れる外国人が増える中、自然観光などの分野でも国際的な視点で磨きをかければ、世界に向けてPRできる地域資源は多いし、ビジネスにも結び付く。海外からの観光客、労働者とも共有しながら、幸せに暮らせるまちを目指してほしい。

起業家養成講座「八戸学院地域連携研究センター」が、起業を目指す人へ第二の創業を志す経営者への対象に開催。これ年度の修了生の中から、約30人が八戸市や周辺地域などで実際に起業している。大谷真樹主任講師をはじめ、第一期で活躍中の実業家や各分野

メモ

2019年3月18日(土) 八戸学院グループ 大谷真樹さん